

いにしえの名張



令和4年7月20日(水)～8月31日(水)

会場 名張市郷土資料館 2階企画展示室

〒518-0737 名張市安部田 2270

観覧時間 9時30分～16時30分

休館日 毎週月曜日・木曜日(祝日の場合は翌日)

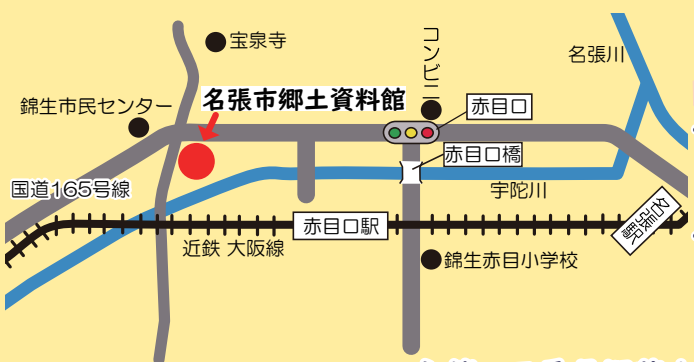
観覧料
無料



根冷4号墳 鈴台小壺



根冷4号墳 貝のに入った杯身



アクセス方法

- 近鉄 名張駅東口よりコミュニティバス「ほっとバス錦」で約15分
ふるさとパーク(郷土資料館前)下車すぐ<平日のみ運行>

- 近鉄 赤目口駅より徒歩約20分

駐車場 10台 ※駐車場の台数に限りがございます。
できる限り公共交通機関のご利用をおすすめします。

主催：三重県埋蔵文化財センター・名張市教育委員会

いにしえの名張

名張は古代より近畿と東の国の人々や文物が行き交う地。
672年の壬申の乱では名張の地を大海人皇子（後の天武天皇）、妃の鸕野讃良（後の持統天皇）が駆け抜けました。

古墳時代には、三重県を代表する古墳群のひとつである美旗古墳群（国史跡）が造られ、飛鳥・白鳳の時代には夏見廃寺（国史跡）が建立されました。

そして、古代末から中世にかけて存在した東大寺領黒田庄は、日本を代表する荘園のひとつとして、日本史の多くの概説書にも取り上げられています。このように、名張の地は、いつの時代にも日本史の主要舞台のひとつとして存在しています。



美旗古墳群 貴人塚古墳

かつての豪族が見た景色、空の色は同じだろうか



（現代語訳）わたしの夫は

どのおあたりを行へているだらう
（沖つ藻の）名張の山を、今日あたり
越えているだらうか

万葉集巻四 五二一

伊勢の国に行幸があつた時、

当麻呂大夫の妻が作つた歌一首
（六九二年）

佐竹昭広ほか校注『万葉集』新日本古典文学大系1

岩波書店一九九九年より

わが背子は
いづく行くらむ
沖つ藻の
名張の山を
今日か越ゆるらむ

講演会

参加無料

会場：名張市郷土資料館 3階講座室

7月30日（土）

第1回目 「いにしえの名張をひらく」

講師：穂積 裕昌（三重県埋蔵文化財センター職員）

時間：13時30分から15時まで（予定）

8月20日（土）

第2回目 「名張の古墳とヤマト王権・渡来人」

講師：高松 雅文（三重県埋蔵文化財センター職員）

時間：13時30分から15時まで（予定）

事前 申込

申込期間：7月11日（月）

～7月28日（木）

申込方法：電話、メール

必要事項：ご希望日、名前、住所（市町村のみ）、

連絡先電話番号（平日につながる電話番号）

募集人数：50人

先着順 満席になり次第締め切ります。

受付時間 平日9時から17時まで

申込電話番号：0596-52-7034

申込アドレス：maibun@pref.mie.lg.jp

件名に「埋文展講演会」と明記してください。

※今後の新型コロナウイルス感染症を巡る状況に変化があった場合には、講演会を中止することがあります

名張市郷土資料館

〒518-0737 名張市安部田 2270

TEL 0595-64-7890

辻垣内遺跡 縄文土器

三重県埋蔵文化財センター

〒515-0325 三重県多気郡明和町竹川 503

TEL 0596-52-7034

ホームページ

FAX 0596-52-7035

e-mail maibun@pref.mie.lg.jp



<https://www.pref.mie.lg.jp/maibun/hp/>

主催 三重県埋蔵文化財センター・名張市教育委員会